

第 4 章

公開授業・公開検討会 (ベストティーチャー賞)



第4章 公開授業・公開検討会（ベストティーチャー賞）

1. ミニ公開授業・ミニ公開検討会

ミニ公開授業&ミニ公開検討会登録授業(前期)

| 授 業 名 | 担当教員 |
|---------------------|-------|
| 春からのキョウヨウ教育必勝法C(学際) | 杉原 真晃 |
| バウンドテニス(スポーツ実技) | 大貫 義人 |

ミニ公開授業&ミニ公開検討会登録授業(後期)

| 授 業 名 | 担当教員 |
|-------------------------|-------|
| 裁判員と死刑 - 哲学とは何か? - (哲学) | 平田 俊博 |

ミニ公開授業・ミニ公開検討会アンケート結果

授 業 科 目 名 :

授業者担当者 :

授 業 日 時 : 月 日() : ~ :

設 問 1 今回の授業の感想を自由に記述してください。

設 問 2 今回の授業を公開・参観して、ご自身の授業をどのように振り返られましたか。何でも、自由に記述してください。

設 問 3 ミニ公開授業・検討会はいかがでしたか。何でも自由に記述してください。

【前期】

ミニ公開授業 1

授 業 科 目 名 : バウンドテニス(スポーツ実技)

授業者担当者 : 大貫 義人

授 業 日 時 : 7月7日(水) 14:40~16:10

授業者のアンケート

(設問 1)

ニュースポーツであるバウンドテニスを今年度新たに着任した先生方には是非参観していただきたいと思い公開授業にした。

(設問 2)

全体の流れの中で、終盤(11回目)ということで、能力別班構成で学生が主体的に取り組める状況であった。技術的な事よりも、バウンドテニスを通じて仲間づくりや協議の特性に触れてもらいたい。

(設問 3)

2名の熱心な若手の教員から、バウンドテニスについて尋ねられた。改めて私自身初心に帰った気になった。

授業参観者のアンケート

参観者1:学内

(設問 1)

・学生の役割分担がはっきりしており、各自がその仕事をしっかり行っている

・ラケットの使い方が(特にバックハンド)が卓球に似ており、運動強度としてもテニスと卓球の中間といったところだと感じた(暑い時期には程よい)

・学期後半の授業ということもあるだろうが、個人に対する技術指導が少なかった

・水分補給はどのようにしているのだろうか?

(設問 2)

学生が積極的にプレー以外に必要なこと(準備、片付け、審判など)に対して力を注いでいた。私の授業では準備や審判を教員自身でやることが多いため、プレー以外の部分もスポーツには必要であることを学生に伝えるような授業にしたいと思った。

(設問 3)

今回は同じスポーツ文化コースの教員が参観者であった。専門外の教員から見た意見も聞いてみたいので、様々な分野の教員が集まる公開授業も行ってはどうかと感じた。

参観者2:学内

(設問 1)

・ゲームの運営を学生に任せており、しかもそれが十分に機能している、というのは良い点だと思う(生涯学習、障害スポーツという観点からも)。あまりなじみのない種目だが、これまでの授業を通しての学習の成果が現れているようである。

・なお今回はシングルスで行われていたが、この場合やや活動量(一人あたり)が少ないように思う。競技者よりその他の者が多くなっている。

(設問 2)

授業の運営に関わることは、私は自ら行っていたが、本授業で見られるようにある程度学生の主体性に委ねる部分があってもよいかもしれない。もちろんそのための「手続き」を十分にふまえてのことになるが。

(設問 3)

ゲームかつ学生の自主的運営となると、実質的に教員の働きかけ場面がかなり限定されたものになる。したがって、論材もまた限られてしまったことになった。議論を十分に深められたかどうか心もとないところがある。

【後期】

ミニ公開授業 1

授業科目名：裁判員と死刑 - 哲学とは何か？ - (哲学)

授業者担当者：平田 俊博

授業日時：12月9日(木) 8:50～9:55

授業参観者のアンケート

参観者1:学内

(設問 1)

重いテーマを取り上げ、ビデオや資料を使って学生に考えさせる授業として大変興味深い内容であった。工事の騒音がうるさいにもかかわらず、学生の聴講態度はまじめ(2名遅刻がいたが)で、授業に集中しているように見えた。しかし、平田先生の講義(コメント内容)についてはノートする学生が少ないのはもったいない(他の授業でも板書しないとノートしない学生が多いが)。今後、学生の意見を紹介する場がつけられれば、さらに(学生の考える力をつける上で)効果的と思われる。

(設問 2)

ビデオや資料の使い方が有効。今後ビデオの活用についても検討したいと感じた。知識の伝達だけでなく、学生に考える力をつける授業のあり方を考える必要があると考えさせられたのは収穫であった。

(設問 3)

参観者2:学内

(設問 1)

・工事の騒音がひどい。平田先生の大きい声は聞こえるが、学生の声がほとんど聞こえなかった。「教養教育重視」「学生を大切に」とは程遠い環境。

・授業内容は面白く、進め方や課題も参考になった。

・eラーニングのメリットと問題点(手書き入力ができない、DVD映像が配信されない)がわかった。

(設問 2)

キーワード中心にまとめさせる課題(宿題)の出し方が参考になった。

(設問 3)

・授業者+事務2+教員2でざっばらんに話し合えた。

・基盤教育院・学長が出席せず残念だった。

参観者3:学内

(設問 1)

・授業を行う先生の、テーマについての幅広い・豊富な知識を感じさせる授業であった。授業を行っていくためには、こうした教師自身の深い追求が必要なのだ改めて実感した。

・興味深いテーマで授業が行われていた。「哲学」というテーマを、話題性に富んだ「裁判員制度」から考えさせようという<仕掛け>が魅力的であった。

・参観者として臨んでいるのでなければ、授業内容について質問したいことがたくさんあった。この授業を受けていた学生たちの中には、おそらく私と同じように「聞きたいこと」を持っている学生がいたのではないかと思う。その疑問に対して、平田

先生の豊富な知識に基づいた回答が得られることで、受講する学生がさらに理解・思考を深めることになると思う。

(設問 2)

・「裁判員制度」のビデオを視聴する学生の反応をみて、映像資料の有効性を再確認した。自分の授業には、<オーディオ・ビジュアル>の要素が決定的に不足している。小学校や中学校の授業場面を中心にして、学生が学ぶための材料を用意していきたいと思う。

・学生の思考を深めるには、授業構成を工夫することが大切だと感じた。90分の授業で考えようとするテーマ・ポイントなどが分かるように黒板などを使いながら整理すると、学生たちは「学び方を学ぶ」こともできると思う。知識を伝達だけでなく、思考・判断・表現の仕方についても学ばせることができるようにしたい。

(設問 3)

・他の先生の授業を参観する機会があるのは貴重なことだと感じた。「大学の授業」とはどのようなものにすべきなのか、手探りの状態であるので、授業を公開していただけることをとてもありがたく思った。

・「検討会」は、他の用事が入っていて参加することができなかった。同じ授業を参観した他の先生方の話しも聞きたかった。次回、機会があれば参加したいと思う。

平成 年 月 日

基盤教育授業担当教員 各位

教育方法等改善専門部会部会長
中 島 勇 喜

「ミニ公開授業・検討会」へのご協力について（依頼）

標記のことについて、本専門部会では、平成 12 年度から、授業改善のための「公開授業」と「公開検討会」を実施しております。公開授業と検討会は授業改善のためにとっても有効な方法ですが、自分の授業を不特定多数に公開し、その検討会を実施することに躊躇なさっている先生方が多いのもまた事実です。そこで、本専門部会では、昨年同様、基盤教育改善充実特別事業の一環として、「ミニ公開授業・検討会」を行うこととしました。

「ミニ公開授業・検討会」は、授業を公開する先生が、自分が決めた特定の日に、気心の知れた 3～5 人の教員（学部や専門分野は問わない）に、あらかじめ声をかけて参観してもらい、その後にそのメンバーでおよそ 30 分程度、授業の検討会を行ってもらうものです。あくまでも授業改善のためですので、授業者が授業の改善に利用するのはもちろんのこと、参観者もその授業の良いところを発見し、自分の授業にも活かすよう心がけてもらおうとの趣旨です。本専門部会としては、山形大学に「ミニ公開授業・検討会」が拡大し、授業改善が進んでいくことを期待しています。

このたび、平成 22 年度 期に基盤教育の授業を担当されている方全員にご案内した上で、上記の趣旨をご理解いただける方に、「ミニ公開授業・検討会」にご登録していただくこととしました。登録していただいた授業を、専門部会のメンバーが参観したり、検討会に出席することはありません。専門部会としては、検討会終了後に授業者と参観者にそれぞれ A 4 版 1 枚程度のアンケートに記入していただき、それを今後の授業改善の資料にさせていただきたいと考えています。アンケート項目としては、授業者と参観者に共通の 3 つです。

今回の授業の感想を自由に記述してください。

授業を公開・参観して、ご自分の授業をどのように振り返られましたか。

ミニ公開授業・検討会はいかがでしたか。

この「ミニ公開授業・検討会」にご協力いただける方は、下記に公開日時と参観者名を記入の上、**月 日（ ）までに学生センター 1 階 教育支援ユニット（高等教育研究企画センター）へ**ご提出ください。公開日時が未定の場合はその旨お書きください。また、実施当日に参観者が変更になっても構いません。なお、登録いただいた方には、後日、「ミニ公開授業・検討会」のアンケート用紙をお届けします。

登録いただいた授業を事前に学内に案内することはありませんが、授業改善に興味のある方に幅広く公開して実施されることをご希望の方は、下記の記入表の欄にチェック印をつけてください。

また、昨年度の様子については平成 21 年度本専門部会報告書「教養教育 授業改善の研究と実践」P.207～をご覧ください。（お持ちでない方は、高等教育研究企画センター（内線 4707）までご連絡ください。）

----- 切り取り線 -----

私は「ミニ公開授業・検討会」を以下のように実施する予定です。

所属：

氏名：

開講科目名称：

実施日時：平成 年 月 日（ ） 校時

参観予定者：

この授業は、参観予定者のほか、参観を希望される方に広く公開します。

平成 年 月 日

「ミニ公開授業・検討会」登録教員 各位

教育方法等改善専門部会部会長

中 島 勇 喜

「ミニ公開授業・検討会」の授業者と参観者に寄せて

このたびは、「ミニ公開授業・検討会」の実施にご協力いただき、ありがとうございます。ご存知のように、「公開授業・検討会」は、授業者のみならず、参観者の授業改善においても、とても有効な方法です。

しかしながら、授業方法と同じように、「公開授業・検討会」の最善の実施方法は、いまだ確立されておりませんし、多様な授業方法がある限り、これからも確立されるとは思いません。本委員会としても、方法論についてはこれからも研究を積んでいかなければなりません。授業者改善の方法として有効に活用されるならば、多様な方法があつてしかるべきだと考えております。どうか、ご自分流の方法を編み出してご教示いただければと思います。

そうした前提を踏まえた上で、「ミニ公開授業・検討会」が、より実りあるものになるように、ここではこれまで本委員会で研究して参りました、「ミニ公開授業・検討会」を実施するに当たっての留意点を、別紙のようにまとめました。ご参考になれば幸いです。

なお、検討会の終了後に、別添のアンケートを授業者と参観者にご記入いただき、学生センター1階 教育支援ユニット(高等教育研究企画センター)へお届けくださいますよう、お願いいたします。

「ミニ公開授業・検討会」を実施するに当たっての留意点

1 今回の「ミニ公開授業・検討会」が終了した後、授業者が授業の改善に利用することはもちろんのこと、参観者もその授業の良いところを発見し、自分の授業にも活かすよう心がけてください。

「また自分の授業を公開しても良い」「今度は自分の授業を公開しよう」といった積極的な姿勢を持てるような、内容のある、明るいムードの「ミニ公開授業・検討会」としてください。

2 授業者は、普段どおりの授業を心がけてください。参観者は授業に介入しないよう、参観する位置についても考慮してください。なるべく、学生の注意が参観者に向かないことが望まれます。

3 参観者は、学生と一緒に授業だけに集中しないでください。大切なのは、授業中の学生の反応です。授業の内容や授業者の行動の変化によって学生は敏感に反応しているはずです。学生は、どのような時に授業に集中し、どのような時に集中力を失っているのでしょうか。

また、今回参観した授業が、15回分（初修外国語の場合は30回）の1回だということに留意してください。今回の授業がその授業の全体ではありません。それと同時に、授業は、それまでに築き上げられてきた学生との関係によって成立していることも忘れないでください。

4 教室の環境などにも留意してください。授業の大切な構成要素です。

5 検討会では、参観者が授業を褒めることから始めてください。授業者のコメントから始めると、ひたすら反省の弁を述べ続けることになる恐れがあります。最初に授業を褒めることが、その後の授業の分析や批評の妨げになることはないはずです。

「基盤教育ミニ公開授業・検討会」アンケート

授業改善の資料としますので、以下のアンケートにご協力ください。

山形大学教育方法等改善専門部会

| |
|--------------|
| 授業科目名：『 』 |
| 授業担当者：（ ） |

所属等 （ 授業者 ・ 参観者 ）

所 属 ： （
）

氏 名 ： （
）

参観日時 ： 月 日（ ） 時 分～ 時 分

- 1 今回の授業の感想を自由に記述してください。
- 2 今回の授業を公開・参観して、ご自身の授業をどのように振り返られましたか。何でも、自由に記述してください。
- 3 ミニ公開授業・検討会はいかがでしたか。何でも自由に記述してください。

ご協力ありがとうございました。

学生センター1階入口前・高等教育研究企画センターBOXにご提出ください。

2. ベストティーチャー賞

はじめに

平成 19 年度に新設した本学のベストティーチャー賞も今年度で4年目となる。これまでのベストティーチャー賞の受賞者がトータルで9名、ベストティーチャー新人賞が3名となる。担当の授業科目は、言語学、文学、芸術、地理学、数理科学、化学、地球環境学、教養セミナー、英語、ドイツ語、スポーツ実技と多岐にわたっており、様々な専門分野から選ばれていることが分かる。

新人賞はこの2年該当者がいなかった。これは審査が厳しいことによるものではなく、応募自体が少ないか少ないことによるものである。応募が少ないのは、この賞の魅力がないのか、ハードルが高いのか、はたまた広報が足りないかのいずれか、あるいはすべてに起因しているのであろう。全学の教員から選ばれるベストティーチャー賞であり新人賞なのだから名誉あることだと思う。それに副賞として研究費がベストティーチャーには30万円、新人には10万円が与えられるのだ。研究費の少ない昨今にあっては、研究を進める上でも貴重だと思うのだが。

海外の超一流大学を訪問すると、建物の外壁や内壁にベストティーチャーの名前を彫ったプレートがはめられているのを見かける。本学でもいつかこのように学生の目につくようにプレートを設置したいと思う。少し照れくさいであろうが、ベストティーチャーが本学の教育の見本となって引っ張って行って欲しいと考える。

とにかくたくさんの人たちから応募があって欲しい。学部からの推薦がなくても一向に構わないのである。学部の違う複数の推薦人から推薦されても構わないのだ。自分で推薦人を探して、授業を観てもらって推薦してもらえばいいではないか。気軽にエントリーして欲しいと思う。

我々は山形大学の素晴らしい教員の授業を表に出して共有化していきたいと強く願っている。その一環として、このベストティーチャー賞がある。奮って同僚を推薦していただきたい。

本ベストティーチャー賞の要項は以下の通りである。本年度の「ベストティーチャー賞」には2名の方が、「ベストティーチャー新人賞」は該当者がなかった。

(1) ベストティーチャー賞受賞者

理学部 臼杵 毅 教授

(受賞理由)

氏が長きに亘って数理・物質領域で開講してきた授業『アモルファスな話(化学A)』は、平成21年度の「学生による授業改善アンケート」で総合評価が4.86という極めて高い評価を得ている。授業を参観した教員からも「うまい」と評価されている。自然の理を理解する喜び、学問の面白さに触れることができる自然科学の授業を展開していることは高く評価できる。

地域教育文化学部 田口 茂 准教授

(受賞理由)

氏は前期に『ドイツ語 A₁』、後期に『ドイツ語 A₂』の授業を担当し、平成21年度の「学生による授業改善アンケート」では総合評価がそれぞれ4.67、4.76という高い評価を得ている。氏は学生とのコミュニケーションをうまくはかっており、『ドイツ語 A₂』のアンケートでは、「コミュニケーション」の設問項目で4.94という極めて高い評価を得ている。このように、氏と学生の信頼関係が構築されている授業であることが推察される。

(2) ベストティーチャー新人賞受賞者

該当者なし

(3) 公開授業・懇談会

【公開授業1】

日時：平成22年6月2日(水)10:30～12:00

講義室：128番講義室(基盤教育1号館2階)

授業名：生活の中の数学(応用)

担当教員：大澤弘典(大学院教育実践研究科教授)

(平成21年度ベストティーチャー賞受賞者)



【公開授業アンケート結果1】

設問1 今回の授業の感想を自由に記述してください。

設問2 今回の授業を参観して、ご自身の授業をどのように振り返られましたか。何でも、自由に記述してください。

設問3 公開授業・検討会はいかがでしたか。何でも自由に記述してください。

授業参観者のアンケート

参観者1:地域教育文化学部

(設問1)

授業の中で、学生が自ら考え、作業する内容が組み込まれており、よく工夫された授業方法でした。受講している学生の集中がよかった。机間巡視をして、学生のとらつき、理解の状況をよく把握しながら授業が展開されていました。学生同士のディスカッション、確認作業がうまく行われており、楽しそうであった。

(設問2)

自分の授業は、ほぼ一方的に行うスタイルなので、可能な部部を取り入れてみたい。

(設問3)

公開授業(大学での)への参加は3回目です。大変分りやすいおもしろい授業でした。

参観者2:学内

(設問1)

学生の活気、積極性、柔らかい雰囲気など、教室全体が大波小波と化すようで感銘を受けました。数字が身近な存在であることを肌で感じながら、それを単なる体験活動で終わらせず、理論と往復するよう構成されていること、学生同士の自然なかかわり、主体的な活動等が行われるよう構成されていること、学生のちょっとした発言や表情をくみ取りつつ授業を調整されていること等、教員の細やかな、そして大学に適したご配慮が詰まったすばらしい授業だと思いました。

(設問2)

理論、思考、そして活動ひとつにしても「導入」が大切だと改めて感じました。自分自身の授業における導入(15回のうちのはじめの1~3回、さらには毎回はじめの30分等)部分のさらなる検討の必要性を感じました。

(設問3)

懇談会において、大澤先生のこれまでの歩み、授業観、フィロソフィー等を拝聴することができ、参観した授業の理解が深まると共に自分自身の教育の見直しにつながりました。ありがとうございました。

【懇談会1】

日時:平成22年6月2日(水)12:00~12:40

会場:高等教育研究企画センターeラーニングスタジオ



【公開授業2】

日時:平成22年7月28日(水)10:30~12:00

講義室:132番講義室(基盤教育1号館3階)

授業名:アモルファスな話(化学A)

担当教員:白杵 毅(理学部教授)



【公開授業アンケート結果2】

設問1 今回の授業の感想を自由に記述してください。

設問2 今回の授業を参観して、ご自身の授業をどのように振り返られましたか。何でも、自由に記述してください。

設問3 公開授業・検討会はいかがでしたか。何でも自由に記述してください。

授業参観者のアンケート

参観者1 基盤教育院

(設問1)

学術的内容の紹介と、学生の質問への回答、学生への語りかけ、実験の披露などベーシックな中に流動的・柔軟なやりとりがふくまれており、まさしく「アモルファスな」授業でした。

(設問2)

実験や研究の最前線といったドキドキ・ワクワク感の重要性を改めて感じました。自分自身の授業に不足しているので、今後取り入れていこうと思いました。

(設問3)

BT受賞先生の授業の工夫、そして思想を拝聴することができてとても良かったです。今後の自分の糧になりました。

【公開授業3】

日時:平成22年7月27日(火)13:00~14:30

講義室:211番教室(教養教育2号館1階)

授業名:ドイツ語IB

担当教員:田口 茂(地域教育文化学部准教授)



【公開授業アンケート結果3】

- 設問 1 今回の授業の感想を自由に記述してください。
設問 2 今回の授業を参観して、ご自身の授業をどのように振り返られましたか。何でも、自由に記述してください。
設問 3 公開授業・検討会はいかがでしたか。何でも自由に記述してください。

参観者1:人文学部

(設問 1)

- ・学生自身にそれぞれ問答させるのはとても良い練習の仕方だと思った
- ・説明の仕方もゆっくり丁寧に分かり易かった。
- ・ドイツでの生活に根差した話が入っていたのが vivid でよかった

(設問 2)

個々に指名して練習させることはやっていたが、学生同士の問答練習はやったことがなかったので、自分の授業でもやってみようと思った。

(設問 3)

教室変更は把握しておいて欲しい

参観者2:地域教育文化学部

(設問 1)

教員はやさしく、教え方が丁寧で、板書も分かりやすい。その中で学生にあてたり、全員に話させたり、グループで考えさせたり、ネイティブ、発音、ドラマを見たりと工夫されていました。

(設問 2)

もう少しゆっくりと話をしなければならないようです

(設問 3)

久しぶりにドイツ語を勉強しました。

参観者3:理学部

(設問 1)

・語学の授業と言うこともあり、授業の流れが良かった。板書による文法説明 意味 読み 学生同士の演習 数人ピックアップ

・特に学生同士での演習を時々効果的に取り入れることで、授業への集中と主体的参加を促していたところが素晴らしいと思いました。

・何よりも学生が楽しそうだった。

(設問 2)

・90 分の使い方を計画的にすべきであることを自分の授業に取り入れたいと思いました。

・学生同士の演習もとても参考になりました

(設問 3)

とても有意義でした

参観者4:基盤教育院

(設問 1)

語学の授業として、とてもシンプルな構成でした。そのシンプルさの中に、学生同士のコミュニケーションの機会を数回挿

入されていて、学生も active に語学を学んでいるなと思いました。CDを使ったネイティブの発音や映画鑑賞(ドイツ映画)など、「本物」にふれる機会も設けられており、学生の意欲が向上、学習目標の明確化が促進されていたと思います。

(設問 2)

学生とのコミュニケーションのとり方、本物との接触等自分の授業に活かせると感じました。

(設問 3)

よい情報交換会ができました。「教養教育とは何か？」を問う良い時間になりました。

【懇談会2・3】

日時 :平成 22 年 7 月 28 日(水) 12:00 ~ 12:50

会場 :高等教育研究企画センターeラーニングスタジオ



< 資料 >

平成 22 年度山形大学基盤教育ベストティーチャー賞実施要項

平成 22 年度山形大学基盤教育ベストティーチャー新人賞実施要項

山形大学教育方法等改善専門部会

趣旨

基盤教育において、多くの学生に支持され、質の高い授業を提供してきた優秀な教員に「ベストティーチャー賞」を授与し表彰する。また、近年、本学に採用された新任教員のうち、基盤教育において優れた授業を提供している教員に「ベストティーチャー新人賞」を授与し表彰する。

賞

ベストティーチャー賞及びベストティーチャー新人賞とする。

ベストティーチャー賞

対象者

対象者は次の各号に該当する者とする。ただし、前年度受賞者及び教育方法等改善専門部会（以下「改善専門部会」）委員は対象外とする。

平成 21 年度において、1 つ以上の教養教育の授業を担当した者（非常勤講師を含む）。

平成 22 年度において本学に在職している者

別添「平成 22 年度山形大学基盤教育ベストティーチャー賞候補者推薦書」に基づき、3 名以上の本学の教員から推薦を得た者

なお、推薦者は、候補者の授業（専門科目でも可）を実際に参観したうえで推薦するものとし、当該推薦について本人の了承を得ておくものとする。

選考方法

賞の選考は改善専門部会が行う。

改善専門部会は、推薦書、授業改善アンケート、履修登録者数、教育方法の工夫・改善、教養教育改善充実特別事業（FD）の参加・貢献等を勘案し、選考を行う。

受賞者の決定にあたっては、応募件数、科目区分、領域を考慮し、3 名以内を選出する。

ベストティーチャー新人賞

対象者

対象者は次の各号に該当する者とする。ただし、前年度受賞者及び改善専門部会委員は対象外とする。

平成 19 年 4 月 1 日以降に本学に採用された者。

平成 22 年 4 月 1 日現在で 40 歳未満の者。

平成 21 年度に 1 つ以上の教養教育の授業を担当した者（非常勤講師を含む）。

平成 22 年度において本学に在職している者。

別添「平成 22 年度山形大学基盤教育ベストティーチャー新人賞候補者推薦書」に基づき、2 名以上の本

第4章 公開授業・公開検討会（ベストティーチャー賞）

学の教員から推薦を得た者。

なお、推薦者は、候補者の授業（専門科目でも可）を実際に参観したうえで推薦するものとし、当該推薦について本人の了承を得ておくものとする。

選考方法

賞の選考は、改善専門部会が行う。

改善専門部会は、推薦書、授業改善アンケート、履修登録者数、教育方法の工夫・改善、教養教育改善充実特別事業（FD）の参加・貢献等を勘案し、1名を選出する。

表彰

受賞者には、表彰状及び下記の副賞を贈呈する。

ベストティーチャー賞 30万円

ベストティーチャー新人賞 10万円

応募方法

期限までに、全ての事項に記入した推薦書を、以下の応募先に持参または郵送する。

応募先 山形大学小白川事務部教育支援ユニット(学生センター)

締切 平成22年6月18日(金)17時

「推薦書」の様式は、山形大学のホームページから「教育案内」をクリックし、その中の「豊かな授業を目指して」からダウンロードしていただく。

<http://www.yamagata-u.ac.jp/gakumu/kaizen/ksite/index.html>

その他

ベストティーチャー賞及びベストティーチャー新人賞受賞者には、すばらしい授業の共有化を図るため、平成22年度前・後期の授業で公開授業を実施していただく。

(本件問い合わせ先)

山形大学高等教育研究企画センター

Tel 023-628-4707

Fax 023-628-4720

E-mail k3cen@jm.kj.yamagata-u.ac.jp

平成 22 年 月 日

山形大学教育方法等改善専門部会会長 殿

平成 22 年度山形大学基盤教育ベストティーチャー賞候補者推薦書

候補者氏名 (歳)

所属 職名

電話

メールアドレス

私たちは、上記の教員を、平成 22 年度山形大学基盤教育ベストティーチャー賞候補者として推薦します。

| | |
|-----------------|--|
| 推薦理由 | |
| 平成21年度 担当科目名 | |

推薦者名 所属
職名 氏名

推薦者名 所属
職名 氏名

推薦者名 所属
職名 氏名

(署名は、自筆のこと)

<資料>

平成 22 年 月 日

山形大学教育方法等改善専門部会会長 殿

平成 22 年度山形大学基盤教育ベストティーチャー新人賞候補者推薦書

候補者氏名 (歳)
所属 職名
生年月日 昭和 年 月 日生
本学への採用年月日 平成 年 月 日
電話
メールアドレス

私たちは、上記の教員を、平成 22 年度山形大学基盤教育ベストティーチャー新人賞候補者として推薦します。

| | |
|-----------------|--|
| 推薦理由 | |
| 平成21年度 担当科目名 | |

推薦者名 所属
職名 氏名
推薦者名 所属
職名 氏名

(署名は、自筆のこと)

ベストティーチャー賞受賞者公開授業

教育方法等改善専門部会で実施した，平成21年度ベストティーチャー賞受賞者の公開授業を行います。

《公開授業》

日 時 平成22年6月2日（水）10時30分から12時00分

授業名 教養科目 応用と学際
『生活の中の数学』

授業者 大学院教育実践研究科 大澤 弘典 教授

教 室 小白川地区 基盤教育1号館2階 128番教室

《懇談会》

日 時 平成22年6月2日（水）12時00分から12時40分

会 場 高等教育研究企画センター eラーニングスタジオ

内 容 上記の授業を参観後，当該授業に対する懇談を行う



主催：山形大学教育方法等改善専門部会、山形大学高等教育研究企画センター
お問い合わせ：山形大学高等教育研究企画センター（023-628-4707）

みなさまの参観をお待ちしております！

< 資料 >

ベストティーチャー賞受賞者公開授業

教育方法等改善専門部会で実施した、平成22年度基盤教育ベストティーチャー賞受賞者の公開授業を行います。

《公開授業》

日時 平成22年7月27日（火）13時00分から14時30分

授業名 共通科目 コミュニケーション・スキル2

『ドイツ語I B』

授業者 地域教育文化学部 田口 茂 准教授

教室 小白川キャンパス 基盤教育2号館1階 211番講義室

《公開授業》

日時 平成22年7月28日（水）10時30分から12時00分

授業名 教養科目 自然と科学

『アモルファスな話（化学A）』

授業者 理学部 白杵 毅 教授

教室 小白川キャンパス 基盤教育1号館3階 132番教室



《懇談会》

日時 平成22年7月28日（水）12時00分から12時40分

会場 高等教育研究企画センター eラーニングスタジオ

内容 上記の授業を参観後、当該授業に対する懇談を行う

みなさまの参観をお待ちしております！

主催：山形大学教育方法等改善専門部会、山形大学高等教育研究企画センター
お問い合わせ：山形大学高等教育研究企画センター（023-628-4707）